

ああ 遠くの空は 晴れている



NO1

南箕輪村教育委員会

尾形教育長就任あいさつより【令和7年10月1日】

皆様 おはようございます。 ただいま、教育長を拝命しました 尾形 浩です。
清水前教育長の実施されてきた教育行政を大事に受け継ぎながら、さらなる充実を求めてまいりたいと思います。

作家 新田次郎原作の映画「聖職の碑」の中で、中箕輪尋常高等小学校の赤羽校長と妻つぎが交わす、印象的な会話のシーンがあります。天竜川の中州に腰掛け、遠く西駒ヶ岳を見上げながら、

赤羽校長 「信州はいいなあ」

つぎ 「山と川ばかり、伊那も高遠も・・・」

赤羽校長 「だから、いい子が育つんだ。・・・ここに生まれてよかった」

「これから教育はだんだん難しくなるが、教師が骨さえ惜しまなければ、いい子が育つ。

どんだんいい子が育つ。」

○厳しくも豊かな自然の中でたくましい子どもたちを育てたいという願いの表出だと思っています。

○山と川を教育の世界に引き寄せて考えてみたいと思います。

山をいつの時代であっても変わらない「不易」なものと考えれば、教育にとって変わらないもの、それは、いつの時代でも教育は「希望と信頼」の上に成り立つものだということです。

川を不易流行の「流行」と考えれば、教育における「流行」とは、変化の激しい社会情勢に柔軟に対応する教育施策を打つことと考えることができます。

教育における「山と川」を大事にして、本村の教育行政を進めていきたいと思っています。

学校教育と社会教育について私自身の思いをお話します。

学校教育では、子どもたちが、「南箕輪村の小中学校で学べてよかったな」と思える学校づくりを全力でバックアップしたいと思っています。具体的には、一人一人の児童生徒が、自分のよさと可能性を発揮し、共に学び合いながら自立していく、そんな授業が、学校教育が展開されるよう、校内研修の充実、地域学習の推進、地域の方々の学校教育への参画等、様々な面からの働きかけと支援をしてまいります。

「授業の充実」を学校づくりの根幹と考え、一人ひとりの教職員が、自分の持ち味を発揮し、「働き方改革」の中においても、時間的・精神的なゆとりをもって、「わかる・できる・伸びたと実感できる授業づくり」と「温かい学級づくり」に骨身を惜しまずに子どもたちにかかわることができるようサポートをしていく所存です。また、様々な要因で子育てについて困ったり悩んだりしているケースについては、関係各課と連携して、今まで同様、丁寧で温かい支援に努めたいと思います。

社会教育では、地域住民の方々が、お互いの社会力を発揮して、よりよい地域社会を具現していくそんな方向を大事にしたいと考えます。「社会力」とは、他者を理解し、良好な関係を築き、よりよい社会を創ろうとする力であり、子どもから大人まで、一人ひとりが自らの中に秘めているものであります。それぞれが、その力を発揮しやすい環境を整えていきたいと思っています。

具体的には、公民館活動や図書館の活用、地域イベントを通じて、お互いが学び続けることのできる環境づくり、よりよい関わり合いが生まれるネットワークづくりを進めていく所存です。「地域の中で仲間と共に 自分を磨く」 子どもも大人も学び続ける自分でありたいと思います。また、時として様々な事情で思い悩んでいる時期があったとしても、この方向性のもと、ふるさと「南箕輪」を大事にする心情がさら大きく豊かになればと願います。

これからの時代、教育の世界には様々な課題があると思いますが、厳しい時代「にもかかわらず」 難しい時代「だからこそ」の気持ちを大切にして、皆さまのご支援・ご協力を賜りながら、この職責を精一杯務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

